

○計画期間:平成22年3月～平成28年3月

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成26年度終了時点(平成27年3月31日時点)の中心市街地の概況

沖縄市は、平成22年3月に沖縄市中心市街地活性化基本計画の内閣総理大臣の認定を受け、「コザらしい生活ができるまち～商店街から交流街へ～」を活性化のテーマに掲げ、合計50の活性化事業を計画に盛り込み、中心市街地の活性化に向けた取り組みを開始した。

その後、合計31事業(平成22年度に13事業、平成23年度に3事業、平成25年度に4事業、平成26年度に11事業)を新たに追加し、現在では81の活性化事業に取り組んでいるところである。

平成26年度までに33事業が完了(全体の40.7%)、46事業が実施中又は取り組みを継続中(全体の56.8%)、そして2事業が未着手(全体の2.5%)となっている。

本市における大きな課題である、商店街の活性化においては、老朽化が進み日中でも薄暗く、危険を伴っていたアーケードの改修を、「胡屋地区商店街商業環境整備事業」として、経済産業省の戦略補助金を活用して実施し、商店街が明るくリニューアルされた。当該事業を契機に商店街側の活性化に対する意識が更に向上するなど、大きな事業効果を上げることができた。また、同じく戦略補助金を活用して実施した「胡屋地区リノベーション事業」、経済産業省の地域商業自立促進事業を活用して実施した「一番街リノベーション事業」では、長期間放置されていた空き店舗がリノベーションにより新たな商業・公益施設として生まれ変わり、商店街におけるにぎわいの創出に大きく寄与している。

そのほかにも、商店街においては、隣接するミュージックタウンとも連携を図り、様々な集客イベントが実施され、空き店舗の解消及び雇用の創出を目的とした「植物工場」を、沖縄振興特別推進交付金(一括交付金)を活用して設置するなど、あらゆる活性化事業を総合的かつ一体的に実施することで、商店街を中心とする中心市街地全体の歩行者通行量の増加に大きく寄与している。

また、地域の歴史を資源として活用したアンテナショップの設置やイベント情報等を発信する「GATEWAY TO ANTHROPOLOGY」を経済産業省の地域商業自立促進事業を活用して実施するなどまちのイメージアップや新たな魅力づくりにも取り組みは始めている。

しかしながら、数値目標の達成に大きく寄与しているものの、こうした歩行者通行量の増加が、商店街での消費といった経済的な波及効果につながっているとは必ずしも言えず、今後は事業者等との連携を一層強化し、個店の魅力向上を図るなど、波及的な効果を高めるための取り組みを推進する必要がある。

基本計画に掲げるもう一つの目標指標である都市福利施設の利用者増加に資する事業としては、社会福祉センターの建設をはじめ、コザ運動公園の体育館の建て替え、本県唯一の動物園であるこどもの国の施設改修が完了するなど、都市福利施設の充実が着実に図られている。体育館の建て替えにより、これまでよりも多くの人々に利用されるようになったほか、プロバスケットボールリーグ「bjリーグ」の公式戦が開催されるようになった。さらに、同運動公園では、老朽化した野球場の建て替えが完了し、プロ野球の公式戦の開催にも対応する施設として生まれ変わり、中心市街地への集客に大きな効果を上げている。

また、若者に対する就労支援をはじめ子育てに関する相談や一時預かりを行う中心市街地就労等支援施設(ファミリーサポート・ジョブカフェ)を商店街の空き店舗を活用して新たに設置するなど、都市福利施設の充実による中心市街地の新たな付加価値が創出されている。

このように都市福利施設の整備も着実に進み、多くの利用者実績をあげているが、中心市街地における居住人口は依然として減少傾向が続いている。今後も引き続き中心市街地における定住促進を図るとともに、居住ニーズや共同住宅等の供給状況等の実態を適切に把握しながら、良好な居住環境の整備を進める必要があると考えている。

平成 22 年度から実証実験として運行を開始した「沖縄市中心市街地循環バス事業」は、これまでに延べ約 45 万人、1 日あたり平均 330 名近くの方々に利用されている。当該事業は、中心市街地の主要施設を結ぶルートを設定することにより、中心市街地における回遊性の向上、生活利便性の向上を図り、中心市街地におけるインセンティブとして付加価値を生み出し、中心市街地におけるにぎわいの創出及び定住の促進を目的に実施している。利用者からは大変好評いただいております、歩行者通行量の増加並びに都市福利施設の利用者の増加に大きく寄与している。これまでの実証実験の検証を踏まえ、中心市街地の活性化に向けて必要不可欠な交通機能として、平成 25 年度からは本格運行へ移行している。

また、事業に遅れが生じていた、「山里第一地区市街地再開発事業」や「コリンザ再生事業」についても事業計画の認可を受ける等、事業が進捗しており、今後の中心市街地活性化に着実に効果を上げていく見込みである。

2. 平成 26 年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

沖縄市と協議会で総会のほか、必要に応じ、幹事会、事務局会議を開催し、5 年目となる中心市街地活性化基本計画の進捗状況の確認や各種取組を実施したことによる地域の変化等について意見交換等が行われた。

協議会からの主な意見としては、基本計画の各種事業に取組むことで、「中心市街地活性化に取組む前と比べるとまちが明るくなった」、「店舗の入れ替わりもあるが活力がある証拠ではないか」、「商店主の意識改革が進んだ」、「商店主間の連帯感が強化された」といった声もいただいております、概ね順調に進捗していると評価する。

一方、「歩行者通行量は増えているが利用頻度が減っている」、「情報の共有を図りつつ、それぞれの持ち場で連携して取り組むことが必要」、「若い世代に対する発信が弱い」といった課題も浮き彫りになってきている。さらにこれまでの取組みの効果をさらに発揮するためにも次のステップとして、「既存の商店街組織を超えた新たな取り組みを検討している」、「次期計画に向けた横の連携の必要性を感じている」といった議論も始まっている。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
コザ文化を基軸とした まちなか交流の促進による にぎわいの創造	歩行者通行量 (休日)	5,964 人/日 (H21)	6,302 人/日 (H27)	8,866 人/日 (H26)	③	③
中心市街地全体としての 付加価値の向上による 生活環境の改善	都市福利施設 年間利用者数	907,457 人/年 (H20)	1,021,057 人/年 (H27)	1,250,099 人/年 (H26)	③	③

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

①目標指標「歩行者通行量（休日）」について

- ・当該目標の達成を図るための各事業の着実な実施により、中心市街地のにぎわいを徐々に取り戻しつつあり、現時点で、既に目標値を上回っている。
- ・特に、「胡屋地区リノベーション事業」の実施による新たな魅力ある店舗の新規出店や「胡屋地区商店街商業環境整備事業」によるアーケード改修などにより商店街が明るくなり、商店街のイメージアップが図られた。これにより新規顧客の誘客など、事業実施による一定の効果が得られた。
- ・また、「プロムナードコンサート事業」や「沖縄国際アジア音楽祭」のほか、沖縄振興特別推進交付金を活用した「ライブハウスサーキット」等の音楽イベントが、コザ・ミュージックタウンを中心に継続的に展開され、「音楽のまち沖縄市」としてのイメージアップと来街者の集客につながっている。
- ・「山里第一地区市街地再開発事業」や「コリンザ再生事業」について、事業の進捗に遅れが生じており、現時点で事業効果が発現していないが、引き続き計画を推進していくことで目標達成は可能と考えている。

②目標指標「都市福利施設の年間利用者数」について

- ・当該目標の達成を図るための各事業の着実な実施により、主要施設における利用者数の大幅な増加が図られており、現時点において既に目標値を上回っている。
- ・コザ運動公園では体育館、野球場の建て替えにより利用者が増加し、また、社会福祉センター・男女共同参画センターの建設及び沖縄市中心市街地就労等支援施設の設置では、当初見込みを大きく上回る利用実績をあげている。
- ・さらに、沖縄こどもの国において、ワンダーミュージアム（参加型の展示施設）内の展示が大きくリニューアルするなど、都市福利施設の機能がより充実し、更なる利用者増加が見込まれることから、目標達成は可能と考えられる。
- ・一方、図書館の整備を行う「コリンザ再生事業」については、地権者との調整等に時間を要していたが、これらの課題も整理され事業着手したことから施設整備後は着実に効果を上げる予定である。

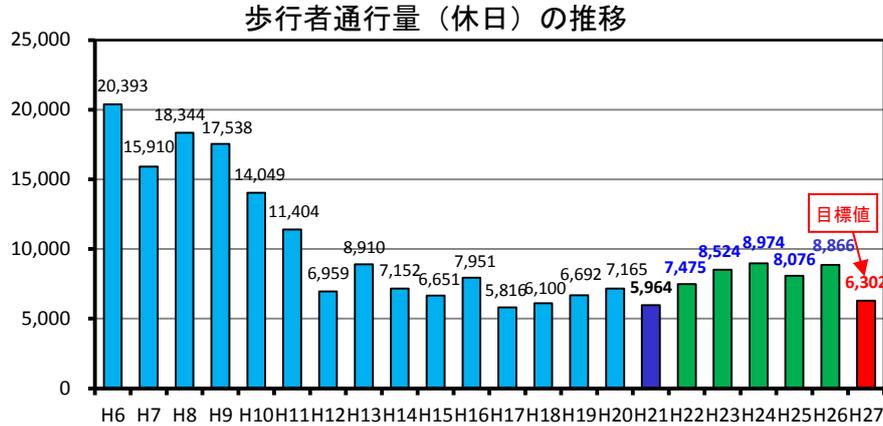
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回のフォローアップから変更なし

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者通行量(休日)」※目標設定の考え方基本計画 P58～P71 参照

●調査結果の推移



年	歩行者通行量 (休日)
H21	5,964 人/日 (基準年値)
H22	7,475 人/日
H23	8,524 人/日
H24	8,974 人/日
H25	8,076 人/日
H26	8,866 人/日
H27	6,302 人/日 (目標値)

※調査方法;歩行者通行量調査

※調査月;毎年度 6 月調査

(平成 24 年度は台風のため 9 月に実施)

※調査主体;沖縄商工会議所

※調査対象;8 調査地点の歩行者及び自転車

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 胡屋地区リノベーション事業(NPO 法人コザまち社中)

事業完了時期	【済】H22 ※H23 から継続して実施中
事業概要	長期空き店舗を改修し、コミュニティー施設や新規商業者向けのチャレンジショップを設置、運営することで商店街の活性化を図り、まちのイメージアップを図り、賑わいを創出する。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年度に商店街内の長期空き店舗 3 件のリノベーションを行い、若者向けのチャレンジショップや商業施設がオープンし、新たな来街者の集客に寄与している。また、託児スペースを併設した就労支援施設である沖縄市中心市街地就労等支援施設の設置や、市民活動の交流拠点として市民活動交流センターをリノベーション事業で設置するなど、多様な機能を複合的に整備することで様々な層の来街者が訪れるようになり、賑わいの創出に寄与している。

②. プロムナードコンサート事業(沖縄商工会議所)

事業完了時期	【実施中】H22～
事業概要	中心市街地においてまちなかコンサートを開催するとともに、プレミアム付き商品券の販売や割引クーポン付きチラシの配布等により、個店及び商店街全体の魅力を高め、商店街での売上向上に資する取り組み行う。
事業効果又は進捗状況	平成 22 年度より、毎年 15 回程度のまちなかコンサートを開催するとともに、プレミアム付き商品券を発行(H22:300 万円、H23～H25:550 万円、H26:1,100 万円)し、商店街等の売り上げ向上に寄与している。また、個店の魅力を高めるため、一店逸品運動の取り組みを合わせて実施することで、相乗効果によるにぎわいの創出に寄与している。

③. 【追加】胡屋地区商店街商業環境整備事業(沖縄市一番街商店街振興組合・沖縄市サンシティ商店街振興組合)

事業完了時期	【済】H23～H24
事業概要	中心市街地の中核的な商店街である一番街商店街及びサンシティ商店街において、商業環境整備としてアーケードの一部改修等を実施することにより、商環境のイメージを向上させ、商店街の活性化を図る。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年度に老朽化したアーケード及び照明設備の改修等を実施し、商店街が明るくリニューアルされ、イメージアップにつながっている。また、平成 24 年度には防犯カメラの整備を実施し、安心安全な商店街として商業環境の改善が図られている。

④. 山里第一地区市街地再開発事業(沖縄市山里第一地区市街地再開発準備組合)

事業完了時期	【実施中】H22～H27
事業概要	住宅棟、商業施設棟のほか、スポーツ施設など地域の生活利便性ならびに公益性の高い施設を整備し、街なか居住の促進を図る。
事業効果又は進捗状況	平成 27 年 3 月には事業計画認可を受けており、今後、権利変換計画の認可、工事着手を予定している。事業完了後は、中心市街地活性化に大きく寄与する予定である。

⑤. コリンザ再生事業(沖縄市)

事業完了時期	【実施中】H21～H27
事業概要	市が区分所有している複合商業施設「コリンザ」をコンバージョンし、老朽化した図書館を移転・整備することにより、都市福利施設の充実・強化を図る。併せて、商業集積や雇用促進施設などの業務機能を強化することにより、中心市街地におけるビジネス拠点を形成する。
事業効果又は進捗状況	地権者との調整などに時間を要したが、課題も整理され平成 26 年度から基本計画を策定するなど事業着手しており、今年度は工事を予定している。事業完了後は、都市福利施設の充実・強化が図られることからまちなかのにぎわい創出にも寄与する予定である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・基本計画に掲載する着実な事業の実施により、数値目標を現時点で大幅に上回る 8,866 人(基準年比 2,902 人増、約 49%増)となった。
- ・調査地点別では、特にミュージックタウン前が大幅に増加しており、これは「プロムナードコンサート事業」や「沖縄国際アジア音楽祭」のほか、沖縄振興特別推進交付金を活用した「ライブハウスサーキット」等の音楽イベント事業が同施設周辺で継続的に開催されたことなどが増加の要因と考えている。
- ・また、これまで減少傾向だった商店街周辺の通行量についても回復傾向を示しており、長期間空き店舗として商店街のイメージを損なっていた建物が、リノベーション事業により新たな魅力ある店舗や交流施設として生まれ変わり、さらには、老朽化により日中でも薄暗かった商店街のアーケードが改修され、商店街に明るさを取り戻し、商店街のイメージアップによる効果が現れたと考えている。
- ・平成 22 年度から実証実験として「沖縄市中心市街地循環バス事業」を実施し、1 日平均 330 名近くの利用実績を上げ、利用者から大変好評を得ている。中心市街地内の商店街や都市福利施設を結ぶルートを設定することで、中心市街地での回遊性向上、生活利便性の向上を図り、バス利用者によるにぎわい創出及び都市福利施設の利用者増加に大きく寄与している。平成 24 年度には市民及び利用者からのルート拡充に対する要望を受け、路線を 1 ルートから 2 ルートに拡充し、平成 25 年度からは本格的な事業として本格運行へ移行している。
- ・今後も、これら取り組みによる効果を定着させるために、各イベント事業などソフト事業を継続的に実施していくことで、計画に掲げる数値目標の達成は可能であると考えている。
- ・一方で、こうした賑わいの回復が必ずしも経済的な波及につながっていないことから、今後は商店街等の事業者と連携した取り組みや個店の魅力を高めることによる売上の向上など、各活性化事業の波及的な効果を高めるための取り組みを検討・実施する必要がある。
- ・主要な事業として位置付けている「山里第一地区市街地再開発事業」及び「コリンザ再生事業」については、進捗の遅れが生じていたが、事業計画の認可を受ける等、事業が進捗しており、今後も引続き事業を推進することで中心市街地活性化に効果を上げていく見込みである。
- ・今回実施したフォローアップについて、中心市街地活性化協議会をはじめ、商店街やまちづくりに関わる関係団体と共有を図り、課題の解決を図るとともに、更なる活性化に向けた取り組みを連携して行っていくこととする。



アーケードの改修により
明るさを取り戻した商店街



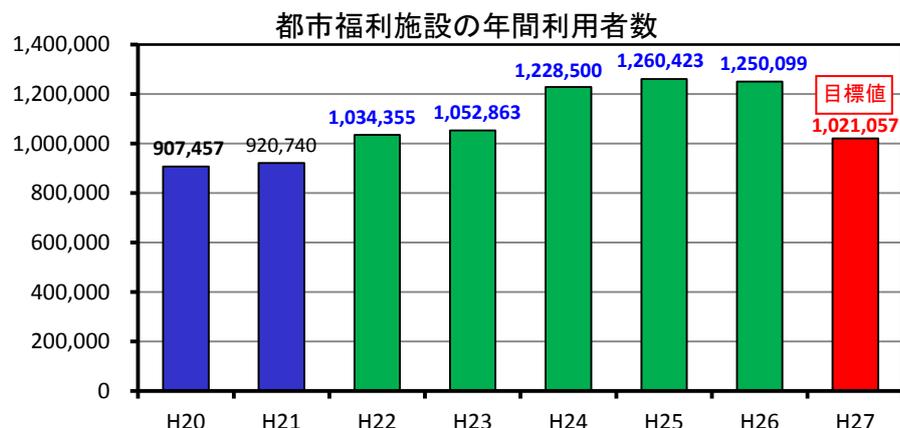
リノベーション事業により
新たにできた商業テナント



中心市街地の主要施設を結ぶ
中心市街地循環バス

「都市福利施設の年間利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P71～P78 参照

●調査結果の推移



※調査方法:各施設からの報告による実績値合計
 ※調査月:毎年1月取りまとめ
 ※調査主体:沖縄市
 ※調査対象:中心市街地内の都市福利施設(5施設)

年	年間利用者数
H20	907,457人/年 (基準年値)
H21	920,740人/年
H22	1,034,355人/年
H23	1,052,863人/年
H24	1,228,500人/年
H25	1,260,423人/年
H26	1,250,099人/年
H27	1,021,057人/年 (目標値)

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①.(仮称)社会福祉センター・男女共同参画センター建設事業(沖縄市)

事業完了時期	【済】H20～H22
事業概要	福祉活動拠点施設整備並びに男女共同参画社会の実現にむけた拠点施設整備を行う。
事業効果又は進捗状況	平成22年度に施設整備が完了し、供用を開始している。年間の利用者は、当初見込みが37,126人だったところ、供用開始4年目の平成26年には38,910人に達し、多くの市民に利用されている。

②.都市公園事業(こどもの国公園)(沖縄市)

事業完了時期	【実施中】H22～H27
事業概要	バリアフリー法や国土交通省策定の都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン、防災機能の強化など、社会情勢の変化に対応するための整備を行い、誰もが居心地の良いまちづくりを推進する。
事業効果又は進捗状況	平成22年度に施設内にエスカレータを設置するとともに、園路整備を実施。 平成25年度には施設内の多目的広場に併設されている野外ステージの改修を実施。 年間の利用者数は、当初見込みが384,105人だったところ、直近の平成26年度には410,244人に達している。

③. コザ運動公園体育施設整備事業(沖縄市)

事業完了時期	【済】H20～H25
事業概要	老朽化した体育館や野球場の改築及び(仮称)多目的センターの新設等により、国内外の各種スポーツ大会等を誘致開催し、交流の拠点としての推進を図る。
事業効果又は進捗状況	体育館の建て替えにより利便性が向上したことにより利用者が増加しているほか、高校総体やプロスポーツ(プロバスケット「bj リーグ」)の試合会場としても活用されている。平成 25 年度には野球場の建て替え事業が完了し、プロ野球の公式戦の開催にも対応する施設として生まれ変わるなど更なる利用者の増加とにぎわい創出に寄与している。 年間の利用者数は、当初見込みが 501,890 人だったところ、直近の平成 26 年度には 726,868 人に達している。

④. 【追加】沖縄市中心市街地就労等支援施設(沖縄市)

事業完了時期	【済】H23 ※H24 から継続実施中
事業概要	中心市街地における子育て世帯・高齢者等の就労活動支援及び就労者に対する子育て支援施設を整備・運営する。
事業効果又は進捗状況	平成 23 年度に施設を整備し、利用者数は平成 23 年の 5,132 人から平成 26 年には 10,047 人まで増加しており、中心市街地における新たな機能として定着が図られている。また、当該施設は商店街内に立地していることから、歩行者通行量の増加にも寄与している。

⑤. コリンザ再生事業(沖縄市) 【再掲】P5 参照

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・基本計画に掲載する事業の実施等により、数値目標を現時点で大幅に上回る 1,250,099 人/年(基準年比 342,642 人増、約 38%増)となった。
- ・施設別ではコザ運動公園、社会福祉センター・男女共同参画センター、沖縄市中心市街地就労等支援施設において利用者が増加している。
- ・コザ運動公園においては、体育館及び野球場の建て替えが完了したことから、市民のみならず高校総体やプロスポーツ等の開催にも利用されるなど幅広く活用される施設となった。また、同球場はプロ野球球団のキャンプ地であり、さらには公式戦の開催にも対応した施設となっていることから、広域からの集客施設として中心市街地への波及効果が期待される。
- ・こどもの国においては、エスカレータの整備によってバリアフリー化が進んだことに加え、平成 25 年度にはワンダーミュージアム(参加型の展示施設)内の展示を大きくリニューアルしたことにより、引き続き利用者数が増加している。
- ・平成 22 年度から実証実験として「沖縄市中心市街地循環バス事業」を実施し、1 日平均 330 名近くの利用実績を上げ、利用者から大変好評を得ている。中心市街地内の商店街や都市福利施設を結ぶルートを設定することで、中心市街地での回遊性向上、生活利便性の向上を図り、バス利用者によるにぎわい創出及び都市福利施設の利用者の増加に大きく寄与している。平成 24 年度には市民及び利用者からのルート拡充に対する要望を受け、路線を 1 ルートから 2 ルートに拡充し、平成 25 年度からは本格的な事業として本格運行へ移行している。

- ・現時点で目標値を大幅に上回る実績をあげているが、図書館の移転・整備など、今後整備が完了する事業によって更なる施設利用者の増加が見込まれることから、引き続き計画を推進することで計画に掲げる数値目標の達成は可能と考える。
- ・一方で、都市福利施設の整備が着実に実施され、施設利用者の増加につながっているものの、中心市街地内の居住人口は依然として減少傾向が続いている。今後は中心市街地内への定住を促進するため、居住ニーズや共同住宅等の供給状況等の実態を把握しながら、良好な居住環境の整備を進める必要がある。
- ・図書館の整備を行う「コリンザ再生事業」については、地権者との調整等に時間を要したが、これらの課題も整理され事業着手したことから施設整備後は着実に効果を上げる予定である。
- ・今回実施したフォローアップについて、中心市街地活性化協議会をはじめ、商店街やまちづくりに関わる関係団体と共有を図り、課題の解決を図るとともに、更なる活性化に向けた取り組みを連携して行っていくこととする。



建て替えられた体育館



空き店舗のリノベーションにより
設置された就労等支援施設



新たに整備された社会福祉センター・
男女共同参画センター